

Injury Alert (傷害速報)類似事例

ランニングマシンによる上肢熱傷

(No.91 ランニングマシンに巻き込まれて受傷した前腕擦過傷の類似事例 1)

事例	年齢：4歳10か月 性別：男児 体重：15.8kg 身長：104.7cm	
傷害の種類	熱傷	
原因対象物	家庭用ランニングマシン（図1. 受傷日から約1か月前に購入し、主に父や兄（7歳）が使用していた。本体重量44kg）	
臨床診断名	上肢Ⅲ度熱傷＋深達度Ⅱ度熱傷	
医療費	2,036,690円	
発生状況	発生場所	自宅の2階の居間
	周囲の人・状況	兄が午後1時ごろから自宅2階の居間でランニングマシンを使用していた。本児が午後1時15分ごろまで1階にいたのは母が確認しているが、受傷時には兄と同じ居間にいた。受傷時、母は1階のリビングにいた。
	発生年月・時刻	2019年9月X日（土）午後1時30分
	発生時の詳しい様子 と経緯	上記時刻、1階にいた母が、ランニングマシンが普段と異なる音を発しているのに気づいた。その音が鳴り続けていたため、母は2階に上がり、現場に到着したのは音に気づいてから約3分後であった。ランニングマシンは動いている状態で、兄がランニングマシンを持ち上げて、本児の挟まれている右手を外そうとしていた。ランニングマシンの速度は7歳児の歩行程度のスピードであった。母がランニングマシンを停止させて、ゆっくりと患児の手を引き抜いた。 本児曰く、ランニングマシンに乗ろうとしたとのことであった。おそらく、後方からランニングマシンに乗ろうとした際に、右手がベルトコンベアの下に引き込まれる形で挟まれてしまったと推測された。 右上腕から前腕にかけて皮膚が剥けており、救急要請の上で医療機関に搬送された。

治療経過と予後

医療機関受診時、右上腕中央部から前腕遠位部にかけて肘関節屈側を含む 6%のⅡ度熱傷を認め、一部白色変化を呈しⅢ度熱傷が疑われた(図2)。明らかな骨傷やその他の外傷はなく、また摩擦熱傷部もデグロージングの可能性は低いと判断した。同日より、白色ワセリン塗布および創傷用吸収パッド被覆による湿潤療法を開始した。第3病日に発熱し疼痛も強いため、熱傷創部感染が疑われ入院管理とした。第4病日、家族の強い希望もあり退院し、その後は形成外科に相談の上で形成外科での外来管理となり、連日開放性湿潤療法を継続した。第13病日にⅢ度熱傷および深達性Ⅱ度熱傷部位に対して、全身麻酔下で腹部からの全層植皮術を行なった(図3)。第21病日に初回の包交を実施し、皮膚の生着は良好であったため、第22病日に退院した。第29病日に全身麻酔下で抜糸を行い、創部感染や皮膚の拘縮なく経過した(図4)。術後2ヶ月の時点で縫合部に部分的な発赤や硬結を認めたが、その後は軽快した。術後半年の時点で、外来経過観察となっている。



図1 家庭用ランニングマシンの図。黒矢印部位に、患児の腕が巻き込まれた



図2 初診時の右上肢創部。右上腕から前腕遠位にかけてⅡ度熱傷を認め、一部白色変化を呈している。



図3 第13病日の創部(全層植皮前)



第13病日の創部(全層植皮後)



図4 第29病日の創部(抜糸後)